

第5回ジュニアセッションの報告

日本天文学会 2003 年春季年会において、第5回ジュニアセッションが開催された。

今回も多く の発表（口頭 14 件、ポスターのみ 3 件）があり、口頭発表およびポスター会場共に賑わった。中高生らしいユニークな発想そして素晴らしい発表も多く、大勢の方々の注目を集めたセッションであった。

毎年恒例となってきましたジュニアセッションも今回で5回目を迎えました。2003年3月24日から26日にかけて、宮城県仙台市の東北大学にて開催された日本天文学会の春季年会中に行われ、多くの中高生が訪れました。特に口頭発表が行われた26日には、多くの方々が賑わい、終始会場は満員の状態で、170名ほどの参加者がありました。

発表内容は、レベルが高いもの、ユニークなものなど様々です。中高生でも学校単位で取り組みやすく、継続して活動しやすいテーマの1つに、流星観測がありますが、ここ数年で高校生の間で盛んになってきた、流星群に関する発表が7件ありました。研究の仕方は電波観測、ビデオ観測、分光観測と多岐に渡り、中には国際宇宙ステーションの観測を2地点で行うことで、流星の経路同定練習をしようというユニークな発想による発表もあり

ました。流星群の発表は毎回多く、今回は5件の発表が前回も参加した高校生によるもので、継続して取り組んでいる様子がかがええました。また、最近では CCD カメラの普及により、自分達で観測したデータを使って研究を行うところも増えてきたのが、特徴の1つです。新星の光度変化の特異な様子を約半年に渡って観測した結果は貴重なデータであり、なぜそのような光度変化を示したかを高校生らしい斬新なアイデアで考察しているところも印象的でした。一方で、公共の観測施設を利用した研究もあり、国立天文台の「君が天文学者になる4日間」をきっかけに活動を継続した高校生や、京都大学理学部附属花山天文台での太陽研究に参加したグループ、葛飾区郷土と天文の博物館での太陽の分光観測など、精力的に活動範囲を伸ばしている高校生も目立ちました。

また、今回の発表で注目を浴びたものの1つに自分達の手でカッシーニの空気望遠鏡を再現する、というものがありません。前回に引き続いて今回は2号機の製作ということで、生徒達が苦心して製作してきた様子がひしひしと伝わってきました。焦点距離9.5メートルもの長大な望遠鏡を自作したという発表は大変多くの人を驚かせ、会場内の視線を一気に集めました。今回の発表もどれも興味深く、研究の中身に思わず感嘆の声があがったものや、笑いをとったものなどプロ顔負けの(?)なかなかの発表内容でした。また、ポスター会場では発表者がテレビ放送の司会者からインタビューを受ける場面もあり、中高生の活躍振りが広



口頭発表会場の様子（撮影：松本直記氏）



ポスター発表の様子（撮影：松本直記氏）



口頭発表の様子（撮影：松本直記氏）

く放送される良いチャンスとなりました。中高生にとって有意義なひとときだったのではないかと思います。ジュニアセッションの目的の1つに、天文学会の年会中に開催することで、中高生がプロの天文学者と触れ合い、直接意見を交換できる、ということがあります。今回もいろいろな方からご意見をいただきました。ただ、発表数が多かったということもあって、他のセッションと同じ時間帯の開催となり、ジュニアセッションに参加できなかった方々も多くいらっしゃったのではないかと思います。より多くの研究者の方に足を運んでいただくためにも、開催の時間帯については毎回頭を悩ませているところです。また、会場で直接ご意見をいただいた他にも、皆様からは、たくさんのコメントを書いていただきました。ありがとうございます。これらは発表者の中高生にお送りしました。

さて、次回のジュニアセッションについては、世話人で話し合った結果、2003年9月25日から27日に愛媛にて行われる秋季年会でもポスター発表のみのジュニアセッションを開催しようということになりました。基本的には、春季年会のときのみ開催することにしていますが、地域の方々と天文関係者との交流および地元の中高生や先生方同士の交流の場としてお役に立てればと思っています。

なお、口頭発表も含めたジュニアセッションは2004年3月22日から24日に名古屋大学にて行われる春季年会の会期中に行う予定です。また、今までの発表応募資格は中高生のみでしたが、発表の機会を広げて欲しいというご要望により、次回の秋季年会からは、原則として中学生・高校生（高専の1～3年を含む）、および同等の年齢の方ですが、前後1年間（つまり小学6年生および高校卒業後1年間）についても、発表の申込みができるようにしました。皆様の周りに、日頃から熱心に活動している中高生がいましたら、是非声をかけてあげてください。次回もユニークな発表に出会えることを楽しみにしています。

最後になりましたが、開催するにあたり天文教育普及研究会には共催となっていたほか、日本惑星協会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市天文台に後援していただきました。また、口頭発表は、日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ！ユニバースのご協力によりインターネットで中継していただきました。そして、多大なるご協力をいただきました年会開催地理事の谷口義明氏およびスタッフの方々に厚くお礼申し上げます。

室井恭子（ジュニアセッション世話人）